

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1. 教育目標

- 元気にあいさつができるように
- 何事にも一生懸命になれるように
- 基本的な生活習慣を正しく身に付けられるように
- 強いからだ（健康）と優しい心をもつように
- 生き生きとした素直な心で、物事がみられるように

2. 本年度の重点的に取り組む目標

- ①幼児が主体性を発揮できる環境構成。
- ②じぶんもたいせつ、ともだちもたいせつの気持ちを育てる。
- ③保護者との連携の充実に努める。

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果					総括評価	コメント	
		取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果			
幼児が主環境性を発揮できる	幼児一人一人が自己発揮できるための指導	4	記録の振り返りをし、遊びの発展へと導く。	2.8	4	遊びが広がっていった。	3.4	A (3.1)	・子どもと一緒に遊び、会話や活動を通して子どもの理解を深めていった。子どもの得意なことを褒めたり、周りの友達に知らせたりすることで自信に繋がったり、遊びが広がっていった。 ・友だちの得意な遊びを皆に知らせることで、友だち同士の関わりが深まった。子ども同士で、教え合ったり時には教師にまで「先生にも教えてあげるね」など意欲的な姿がたくさん見られるようになった。・遊びの中に、子どもたちが自分たちで考え工夫する、困った時には話し合う、相談し合う、そして解決していく姿が見られた。
		3	幼児理解を深め、一人一人の記録をとる。		3	好きな遊びに集中して遊ぶようになった			
		2	子どもと遊び、一人一人の幼児の内面を理解する。		2	好きな遊びを見つけて遊ぶようになった			
		1	幼児理解一人一人をよく見る		1	幼児たちは喜んで登園している。			
じぶんが大切友だちも大切に	自分が大切な存在だと気づき、友だちの大切さにも気付ける指導をする。	4	生命の安全教育の研修や教材研究を重ね、幼児一人一人を守る。	3.4	4	保育者の紙芝居や話を聞き、自分や友だちの体の大切さなどに気付く。	3.6	A (3.5)	・生命(いのち)の安全教育について研修を重ね、教材作りにも進んでいった。自分の考えや思いだけでなく研修の中で他の職員と話し合う中で、様々な考えや思いを知ることができ、学びが深まっていった。 ・出来上がった『紙芝居』を子どもたちや保護者にも読み聞かせ、共に自分の生命(命)の大切さや体の大切さや友だちの大切さを学ぶことが出来た。 ・日頃の園生活の中でも、おむつや着替えの際に人に見られないような場所で行ったり、自分のプライベートパーツを触らない等、伝えていった。 ・生命(いのち)の安全教育は、まだまだ始まったばかりで伝え続けることが大切と感じる。伝えるための教材研究も継続していきたい。
		3	生命の安全教育の研修を受け、正しい性教育を学ぶ。		3	痛みを共感し、自分も友だちもケガをしないようにし、身体を大切にしようとする。			
		2	ケガや病気をしないように、自分の身体の大切さを幼児に知らせる		2	自分の身体を大切にケガをしないように気を付ける。			
		1	幼児のケガに対して、治療しながら痛みを共感し、治療をする。		1	ケガをすると痛いことに気付き、治療してもらう。			
	自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の展開。	4	幼児なりの表現を受け止め、言葉にして返していく	3.3	4	教師や友だちとの言葉のやり取りを楽しむようになった	3.3	A (3.3)	・常に子どもたちの声に耳を傾けることで、子どもたちが話を聞いてもらいたいという思いを強く持ち、安心して声を出し始めることに教師も気づき始めた。 ・今子どもたちの関心が向きそうな絵本や紙芝居を選び読み聞かせをし、その後、子供たちの目につく所に、取り出しやすい場所に置く。「先生、読んで！」と持ってきたり自分たちで読み合ったりする姿が見られた。 ・気に入った絵本や紙芝居から、遊びの中でセリフが行交うなどし始め、生活発表会の劇遊びに繋がっていった。 ・人前でセリフを言い、褒められたりすることで自信が付き、挨拶や自分の思いが、言葉で出せるようになってきた。
		3	保育の振り返りや記録の分析から、幼児の思いを推測してみる		3	自分の思いや知っていることなどを、聞いてもらいたがるようになった			
		2	幼児の興味や発達に適した絵本や紙芝居などを読み聞かせる		2	自分の気持ちを、伝えようとするようになった			
		1	幼児の表情に着目し、言葉にならない幼児の思いに着目する		1	自分の気持ちを、伝えようとするようになった			
保護者との連携の充実	個人記録やおたより等で保護者との連絡を大切にする	1	幼児の細かな成長や課題を、ドキュメンテーションで年3回『むつみシート』で伝えることが出来た。	2.5	1	幼児の園での育ちを『むつみシート』を通して知ることが出来た。	2.5	C (2.5)	・子どもたちの、園でのケガや様子等電話や連絡帳で伝え合うものの、時に職員間での連絡が的確におこなえないこともあった。 ・むつみシートでの配信は、保護者からは幼稚園での様子が良く分かるや子どもの様子をよく見てもらえる等の誉め言葉を頂くことができるが、職員が負担になっているという声も聞かれ始めた。今後の対策が必要になってきている。 ・個人懇談を希望者のみの参加にしているが、子どもについて相談したい保護者に限って一度も参加しないということがあり、課題となってしまった。
		1	毎日の送迎の際や個人懇談で、直接保護者に幼児のことを伝えることが出来た。		1	直接子どもの園での様子や課題をきくことができた。			
		1	毎月の保育内容やねらいについて、クラスだよりやグループだよりで知らせる。		1	幼稚園の保育を理解できるようになった。			
		1	園での 幼児のケガ等体調不良について、連絡帳や電話で保護者に連絡する。		1	幼稚園でのケガや体調を知ることができ、安心して登園させられる。			

☆取組と成果に関する評価結果
A とても良い
B まあまあ良い
C 普通
D 良くない(再検討)

○総合的な評価

評価	理由
B	<p>・子どもたち一人一人を大切にしながら、一人一人の個性も受け止めながら、子どもが主体的に遊びに取り組めるように環境構成を進めてきた。今年度は夏の教師研修大会で研究発表の担当があり、いつもより更に教職員が一人で考え進めるのではなく、皆で意見を出し合い試行錯誤しながら環境構成を進め研究発表の資料作りや発表内容のまとめに取り組んでいった。新任教諭が3名だったこともあったが、経験の長い教諭もいて何とかバランスが取れたようにも思われる。個人記録を取ることで、今どんな遊びに夢中なのか、今どんな環境が必要なのか考え準備を進めていった。職員間の研究や準備、環境構成に当たっての努力の差も出ていた。互いに影響し合うという所が見られなかったように感じる。「生命(いのち)の安全教育」では、講師の先生を交え、学びを重ね教材作りを皆で行った。文部科学省からの委託事業も受けての研究となったが、職員間の協力も受け「生命(いのち)の安全教育」を公民館で行い地域に広げる活動にもつながった。保護者との連携では、努力はしているものの、一部の保護者からは満足いただけない厳しい意見も出て今後の課題が残ってしまった。次年度の課題として残し、努力を重ねていこうと思う。</p>

3. 今後、取り組む重点的目標

	課題	具体的取り組み方法
1	幼児が主体性を発揮し、夢中で遊び、たくさん遊びのブームが広がる環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルトーク等行い友だちの意見を聞いたり、自分の意見を言ったりの経験を重ねていく。 ・子どもたちの遊び中でブームが起こる環境構成を整える。
2	教師の連携、保護者との信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携を細かく行い共通理解を行う。 ・個人記録の充実を目指し、子どもの姿を共有する。 ・個人懇談や送迎の際に子どもの様子を細かく伝える。

< 意見 >

- ・入園年齢が下がる中、子ども一人一人に対しての指導、見守り、特に情緒面での保育は、その子自身の基盤となる重要な期間であるため、先生方のご負担も益々増加傾向にあると思われませんが、課題を一つずつクリアしてほしい。
- ・貴園の『生命(いのち)の安全教育』の取り組み、地域にも広げようとする行いは、地域づくり・地域環境にも大きな役割を果たしてくれると期待しています。
- ・個人記録等も続けられ、大変な作業とは思いますが、子どもの為保護者の為に是非、じっくり子どもの観察を続け記録してほしい。そこには、先生方の質の向上につながっていくと思われる。